

家畜飼養学特論 (2単位)

担当者氏名 祐森誠司・谷口信和

◆学習・教育目標

動物が生命活動・生産活動を維持する上で必要とする栄養素は体内合成で賄いきれない、よってその必要量を資料に依存して摂取する。要求される栄養素の種類・量は動物種・成長ステージにより異なることは周知であるが、それらの消化吸収は動物種によって消化器官の特徴があり、異なる。さらに、生産業として捉えた場合の経営方式は状況に応じて変化する。よって、飼料の性質と栄養素の摂取および消化吸収、さらには経営経済的規程要因について教授する。具体低ナ内容のひとつとして各学生が対象とする実験動物等を事例として考え、理解を深める。なお、テーマに沿ったフリーディスカッションを主とした方式で行い、トピックス（直近の話題）についても論考する。

◆取り扱う領域（キーワードで記載）

栄養素 _____ 消化器構造 _____ 栄養素要求量 _____ 維持・成長 _____
 維持管理 _____ 飼料構造 _____ 経営的評価 _____

◆授業の進行等について

	テーマ	内 容	授業のねらいまたは準備しておく事項
第1週	ガイダンス	個々の試験対象となる動物の飼料	試験等における飼育管理の概念について
第2～4週	供試動物の飼育管理条件と栄養	データ獲得の絶対条件となる栄養状態のチェック	生産や試験成績への管理条件が及ぼす影響
第5～7週	微量栄養素の管理	成長ステージと微量栄養素について	微量栄養素の過不足による問題と最近の栄養供給事情
第8～10週	飼養管理	畜種別・家畜の飼養管理	飼養管理の多様性と規程要因
第11～15週	飼料構造	飼料の調達（生産・調製、購入）・給与と経営的評価	飼料構造の実態と経営的評価

◆教科書及び資料（授業前に読んでおくべき本・資料）

書名／著者／発行所（発行年）

適宜、資料は配付する

◆授業をより良く理解するために便利な参考書・資料等

書名／著者／発行所（発行年）

畜産経営学／嶋津 正他編著／文永堂（1984）

◆評価の方法（レポート・小テスト・試験・課題等のウェイト）

随時、レポートの提出を求め、評価する

◆その他受講上の注意事項

